

当面の小委員会の進め方について

1. 当面の目標

平成27年7月に本小委員会の審議を経てとりまとめられた「第2次とりまとめ」及びその後の国内外の諸状況の変化等を踏まえ、2017年後半に日本が主催することが予定されている第2回国際宇宙探査フォーラム(ISEF2)を視野に入れて、我が国における国際宇宙探査の方策や参加の在り方について論点を整理し、小委員会としてとりまとめる。

2. 主な論点

- 国内外の国際宇宙探査に係る状況の把握・分析
- 我が国の国際宇宙探査の方策や参加の在り方に関する検討

国際宇宙ステーション・国際宇宙探査小委員会
構成員

	阿部 晃一	東レ株式会社代表取締役副社長
	古城 佳子	東京大学大学院総合文化研究科・教養学部教授
第二 主査代理	角南 篤	政策研究大学院大学教授
	知野 恵子	読売新聞東京本社編集局企画委員
	続橋 聡	(一社)日本経済団体連合会産業技術本部長
	西島 和三	持田製薬株式会社医薬開発本部フェロー、 東北大学未来科学技術共同研究センター客員教授
主査	藤崎 一郎	上智大学特別招聘教授
第一 主査代理	牧島 一夫	国立研究開発法人理化学研究所 グローバル研究クラスター研究顧問、 第6期宇宙理学委員会委員長
	向井 千秋	東京理科大学副学長 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構技術参与
	米本 浩一	九州工業大学大学院工学研究院 機械知能工学研究系宇宙工学部門教授

4. (2)① ix) 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動

年度	平成 27年度 (2015年度)	平成 28年度 (2016年度)	平成 29年度 (2017年度)	平成 30年度 (2018年度)	平成 31年度 (2019年度)	平成 32年度 (2020年度)	平成 33年度 (2021年度)	平成 34年度 (2022年度)	平成 35年度 (2023年度)	平成 36年度 (2024年度)	平成 37年度 以降
27 国際 有人 宇宙 探査											

27 国際有人宇宙探査

成果目標

【基盤】 他国の動向も十分に勘案の上、その方策や参加の在り方について、慎重かつ総合的に検討を行う。

平成27年度末までの達成状況・実績

- 各国との調整を経て、第2回国際宇宙探査フォーラム (ISEF2) を平成29年後半に東京で開催することを決定した。
- 国際宇宙探査の方策や参加の在り方に関する検討を平成27年度から開始する。

平成28年度以降の取組

- 国際宇宙探査の方策や参加の在り方に関する検討について、平成29年度前半を目途に取りまとめを行う。
- 上記検討結果を踏まえ、第2回国際宇宙探査フォーラム (ISEF2) を主催する。

●宇宙基本計画(平成27年1月9日 宇宙開発戦略本部決定)(抄)
(国際有人宇宙探査関連記述)

4. 我が国の宇宙政策に関する具体的アプローチ

(2) 具体的取組

① 宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施方針

ix) 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動

- ・ 宇宙科学・探査及び有人宇宙活動は、人類の英知を結集して、知的資産を創出し、宇宙空間における活動領域を拡大するものであり、これまで多くの我が国のプロジェクトが世界的に高い評価を受けている。これまでの様々なプロジェクトを通じて培ってきた技術力と実績をベースに、宇宙分野における世界的な成果の創出や国際的な発言力の確保等を目指し取組を進める。(文部科学省)
- ・ 国際有人宇宙探査については、計画が今後国際的に検討されるものであることから、他国の動向も十分に勘案の上、その方策や参加の在り方について、外交、産業基盤維持、産業競争力強化、科学技術等に与える効果と要する費用に関し、厳しい財政制約を踏まえつつ、厳格に評価を行った上で、慎重かつ総合的に検討を行う。(文部科学省)